

令和 7 年度事業報告

(令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日)

I 会務運営

1. 総会

第 58 回定時社員総会を令和 7 年 6 月 17 日（火）14 時 30 分から、東京都千代田区の都市センターホテルにおいて開催し、以下の議案を付議した。出席代議員数は 74 名（うち委任状出席 36 名、議決権行使書出席 26 名）で、定款第 19 条第 1 項に定める定足数（総代議員数 74 名の過半数）を充足しており、社員総会が成立した。

- 1) 令和 6 年度事業報告、同計算書類、令和 7 年度事業計画および同収支予算を報告した。
- 2) 任期満了に伴う理事の選任については、原案どおり理事 12 名を承認、可決した。
- 3) 任期満了に伴う監事の選任については、原案どおり監事 1 名を承認、可決した。
- 4) 7 名に名誉会員の称号を授与する提案を、原案どおり承認、可決した。

2. 理事会

(1) 定例理事会

定例理事会は合計 8 回ハイブリッド形式で開催した。主要な処理事項は、次のとおりである。

- 1) 令和 6 年度事業報告、同計算書類、令和 8 年度事業計画および同収支予算を審議し、承認した。
- 2) 会員の入退会を承認した。
- 3) 2026 年日本コンクリート工学会賞の受賞者を決定した。
- 4) 2025 年度コンクリート技士・主任技士試験およびコンクリート診断士試験の合格者を決定した。
- 5) 任期満了に伴う次期役員改選数および候補者を決定した。
- 6) 名誉会員候補者、終身会員およびフェロー会員を決定した。
- 7) 2025 年度助成金採択者を決定した。
- 8) 役員の報酬等に関する規程の一部改正案を承認した。

(2) 臨時理事会

- 1) 臨時理事会を令和 7 年 6 月 17 日にハイブリッド形式で行い、下村匠理事、丸屋剛理事を副会長に選任した。また、役員の会務担当を決定した。

3. 支部長会議

支部長会議を令和7年10月1日、令和8年2月10日の2回開催し、各支部の事業計画、事業報告、収支予算等に関して審議した。

4. 登録関連事項

(1) 登記

1) 令和7年6月24日に、役員の変更登記（一部改選）および会計監査人の重任登記を完了した。

(2) 内閣府関係

1) 令和7年6月26日に、令和6年度事業報告、同財務諸表等の資料を内閣府に提出した。

2) 令和7年7月7日に、理事12名および監事1名の選任に係る変更届出書を内閣府に提出した。

3) 令和8年3月30日に、令和8年度事業計画、同収支予算書等の資料を内閣府に提出した。

5. 法人の運営体制の充実を図るための取組

(1) 役員研修会の開催

令和7年8月26日に、顧問弁護士による「役員研修会」を開催し、ガバナンス及びコンプライアンスの遵守を中心に、理事及び監事の権限、責任及び義務、競業取引及び利益相反取引に関する規制、改正公益認定法の概要等について講義を受け、理解を深めた。

(2) 会員等からの要請等に対する理事会機能の充実

会員等からの通報、苦情、要請等に対する対応については、要請等の内容により適宜理事会に報告して、審議の上、機関決定をした上で対応する体制を整えている。

(3) 「次世代構想特別委員会」の設置とビジョンの策定

令和6年9月から令和7年8月までの1年間、会長直轄の特別委員会として「次世代構想特別委員会」を設置し、現在の学会活動を総括した上で、2030年に向けて今後の学会活動をどのように進めるかのビジョンを策定した。

6. 委員会

委 員 会	委員長 (議長)	委員数	開催数*		メール 審議数
			委員会	WG等	
1. 役員候補推薦・調整委員会	杉山 隆文	16	2	—	1
2. 選挙管理委員会	一瀬 賢一	12	0	—	1
企画調整部門					
1. 企画調整会議	前川 宏一	9	8	—	2
2. 支部長会議	前川 宏一	21	2	—	0
3. 企画・評価委員会	前川 宏一	9	0	—	0
4. 産業財産権検討委員会	田中 久順	9	0	—	1
総務・財務部門					
1. 定款・規則改定委員会	田中 久順	7	0	—	1
2. 総務財務委員会	田中 久順	10	4	—	5
3. 称号授与審査委員会	田中 久順	7	1	—	2
4. 助成金検討委員会	山田 義智	10	2	—	1
5. 助成金審査委員会	橘高 義典	12	2	—	0
学術・研究部門					
1. 研究委員会	岸 利治	22	3	1	6
(1) コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会	瀬古 繁喜	20	1	0	0
(2) コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会	岡崎慎一郎	13	0	0	0
(3) コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会	塩原 等	21	1	1	0
(4) 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会	大下 英吉	21	0	3	0
(5) コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会	河合 慶有	21	2	11	0
(6) コンクリート分野における電磁波の高度利用に関する研究委員会	濱崎 仁	22	3	8	0
(7) 予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会	竹田 宣典	18	3	14	1
(8) 鉄筋コンクリート造構造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会	壁谷澤寿一	20	6	7	0
(9) コンクリート構造物の崩壊過程の予測・評価に関する研究委員会	杉本 訓祥	19	4	10	0
(10) カーボンニュートラルを視野に入れた基礎・地盤に用いるコンクリート系技術の土木・建築共通化に関する研究委員会	玉井 真一	24	7	4	0

委 員 会	委員長 (議長)	委員数	開催数*		メール 審議数
			委員会	WG等	
(11) コンクリート構造とコンピュータビジョンの融合に関する研究委員会	鈴木 卓	10	5	0	0
(12) 高濃度 NaCl 水溶液を用いたコンクリートの配合設計に関する研究委員会	原田 健二	10	3	1	0
(13) コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する研究委員会	肴倉 宏史	25	3	—	0
2. 国際委員会	河野 進	12	3	—	23
(1) ACF(アジアコンクリート連盟)対応委員会	長井 宏平	13	1	0	5
(2) JCI-ACI コラボレーション委員会	三木 朋広	9	0	0	2
(3) JCI-TCI コラボレーション委員会	丸山 久一	12	5	0	0
(4) <i>fib</i> コンGRES 2030 準備委員会	石田 哲也	18	4	3	2
(5) ナショナルレポート作成 TG	西山 峰広	5	—	1	0
(6) MC3 Conference 実行委員会	丸山 一平	11	5	—	0
3. 図書編集委員会	河合 研至	5	1	—	3
(1) コンクリート工学編集委員会	河合 研至	36	12	15	2
(2) 文献調査委員会	諏訪田晴彦	23	10	15	4
(3) コンクリート工学論文集編集委員会	小林 孝一	20	6	—	1
(4) ACT 編集委員会	丸山 一平	20	4	—	2
4. コンクリート工学年次大会委員会	下村 匠	11	3	—	6
(1) コンクリート工学年次大会 2025(盛岡) 実行委員会	石川 雅美	87	2	9	0
(2) コンクリート工学年次大会 2026(奈良) 実行委員会	鎌田 敏郎	93	1	43	0
(3) コンクリート工学年次大会 2027(札幌) 実行委員会	濱 幸雄	90	0	2	0
(4) コンクリート工学年次大会 2028 (鳥取) 実行委員会	河合 研至	2	0	1	0
(5) コンクリート工学年次論文査読委員会	小山 智幸	49	3	2	0
5. 学会賞選考委員会	下村 匠	22	3	4	2
技術・普及部門					
1. 技術委員会	丸屋 剛	14	2	—	9
(1) コンクリート基本技術調査委員会	柳井 修司	19	7	10	0
(2) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会	野口 貴文	23	1	1	0
(3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会	溝渕 利明	26	2	3	1

委 員 会	委員長 (議長)	委員数	開催数*		メール 審議数
			委員会	WG等	
(4) 既存コンクリート構造物の性能評価指針改訂原案作成委員会	今本 啓一	22	1	2	0
(5) JCI-S-002 および 003 改正原案作成委員会	橘高 義典	8	2	0	0
2. 標準化委員会	丸屋 剛	11	2	—	8
(1) 規準・指針管理委員会	濱 幸雄	8	2	—	1
(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会	上野 敦	34	2	9	3
(3) ISO/TC71 対応国内委員会	國枝 稔	106	3	21	66
(4) コンクリートおよび構成材料の CO ₂ 固定量の評価方法に関する JIS 原案作成委員会	野口 貴文	33	4	7	4
(5) JIS A5023 再生骨材コンクリート L 改正原案作成委員会	野口 貴文	27	0	—	3
3. 広報委員会	丸屋 剛	13	2	—	5
(1) 情報コミュニケーション委員会	伊藤 始	14	6	—	7
(2) JCI 創立 60 周年記念事業実行委員会	野口 貴文	28	3	6	2
(3) コンクリート女性連携促進検討委員会	須田久美子	12	2	0	2
4. 普及委員会	丸屋 剛	11	2	—	12
(1) コンクリート技術講習委員会	濱崎 仁	14	1	3	0
(2) マスコンクリートソフト普及委員会	宮澤 伸吾	26	4	7	2
(3) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針普及委員会	鎌田 敏郎	28	2	6	0
(4) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会	花岡 大伸	17	1	0	0
資格付与部門					0
1. 資格・講習委員会	野口 貴文	13	2	0	1
(1) コンクリート技士試験委員会	野口 貴文	32	2	23	0
(2) コンクリート技士研修委員会	下村 匠	25	0	1	0
(3) コンクリート診断士講習委員会	加藤 佳孝	22	1	2	1
(4) コンクリート診断士試験委員会	國枝 稔	49	2	38	0
(5) コンクリート診断士研修委員会	岩城 一郎	19	2	4	0
計		1,580	185	298	200
			483		

* 「—」は該当する会議体がないことを示す。

II 公益目的事業

[公1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管委員会

1) JCI-TC231A コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会

(令和 5-7 年度)

前年度までに、詳細なアンケート調査により、コンクリートでの石灰石微粉末の利用実績および石灰石微粉末の製造・流通の状況、ならびに今後への期待を明らかにした。セメント製造のカーボンニュートラル技術調査として、海外も含めた石灰石微粉末の活用方法の取組みを調査し、カーボンニュートラル技術としての石灰石微粉末および人工炭酸カルシウム粉末の活用状況と今後の展望を検討した。コンクリート製品での実物大の評価実験を行い、石灰石微粉末と人工炭酸カルシウム粉末の利用の効果を明らかにするとともに、品質規格(案)を作成した。令和 7 年度は、以上の活動成果を委員会報告書として取りまとめ、報告会を開催した。

2) JCI-TC232A コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会

(令和 5-7 年度)

コンクリート構造物に関する実務での設計や維持管理体系の高度化に対し、今後活用が期待される AI・機械学習技術の利用を促進させることを目的として、コンクリートの材料および構造両面でのビッグデータの収集方法の構築と、AI・機械学習への活用方法を検討した。また、機械学習を活用した回帰分析、画像認識の事例をもとに、適用性の議論を行い、さらに、無償公開されている実験データの解析と、コンクリート工学年次論文集にて報告された実験データの収集と体系的な整理を実施した。これらのデータを統合し、データベース基盤を整備した上で、当該データに基づく回帰モデルを構築する一連の手法を提示することができた。令和 7 年度は、2 年間の活動で得られた成果を報告書として取りまとめ、成果報告会を開催した。

3) JCI-TC233A コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会

(令和 5-7 年度)

建築・土木構造における、コンクリート構造物の非線形地震応答解析を用いる性能評価型耐震設計法を対象として、日米の構造設計実務における、非線形時刻歴地震応答解析の耐震設計のための用いられ方、特に、設計基準や制度の現状ならびに設計例による現在の慣行の違いについて、2 年間の調査活動の成果を報告書として取りまとめ、成果報告会を開催した。

4) JCI-TC234A 構造性能に主眼を置いた鋼材腐食性状の診断・推定手法に関する研究委員会

(令和 5-7 年度)

既存実構造物における鋼材腐食に関して、構造性能の観点に立脚した診断対象領域の

選定，非破壊検査手法の選定から検査結果の評価ならびにその時間軸空間予測に至る一連の内容や手順を取りまとめたマニュアル類の作成を目的として，これまで既往手法の整理，現地調査，基礎実験など，令和5年度から令和6年度まで活動した。令和7年度は，これまでの活動で得られた成果を報告書として取りまとめ，成果報告会ならびに一般講演からなるシンポジウムを開催した。

5) JCI-TC241A コンクリート用自己治癒材の性能評価と実環境での適用に関する研究委員会 (令和6-8年度)

自己治癒材(無機系，有機系，微生物系等)の効果発現に対する環境影響の評価，および効果の発現性・持続性について非破壊試験を用いて評価する手法を検討し，令和7年度は，委員会報告書の原案を作成した。特に自己治癒材に用いられる微生物や硫酸劣化に関連する細菌に関して，効果発現のトリガーや持続性に影響を与える環境影響を文献調査により整理した。また，微生物と繊維補強を併用した自己治癒コンクリートを対象にひび割れ閉塞効果に関する共通試験を実施するとともに，微生物系自己治癒材を用いて補修した実構造物においても各種の非破壊試験(弾性波，電磁波，電気化学，透水・透気性等)を用いて，補修効果の発現性・持続性，環境影響を評価する手法を提示した。

6) JCI-TC242A コンクリート分野における電磁波の高度利用に関する研究委員会 (令和6-8年度)

数百 MHz～数百 THz の周波数帯の電磁波に関して，従来の鉄筋探査等への適用だけでなく，コンクリート内部や損傷状況の可視化，塩分・水分等の劣化因子の把握，鉄筋腐食状況の評価等のコンクリート分野への高度利用に対する技術の調査，普及のための検討を行った。令和7年度は，電磁波レーダ法による塩分量評価に関する実験的検討，テラヘルツ波の測定装置等に関する調査，近赤外線によるコンクリート凝結・硬化課程の評価に関する実験的検討を行った。また，これらの結果を含め，電磁波の高度利用に関する最新の知見を委員会報告として取りまとめ，技術の普及のための検討を行った。

7) JCI-TC243A 予防保全を目的とした鉄筋コンクリート構造物の点検方法に関する研究委員会 (令和6-8年度)

現行の5年毎の橋梁定期点検では，劣化の把握時点において既に鉄筋腐食が相当程度進行している場合が少なくなく，結果として対策は事後保全的対応に偏りがちである。そこで，劣化の初期段階における状態を高精度に評価可能な点検手法を確立し，予防保全型維持管理への転換を図ることを目的として活動を行った。令和7年度は，①中性化深さの評価方法，②塩化物イオン濃度の評価方法，③鉄筋腐食度の評価方法の検討を行う各WGでの活動を通じ，中性化および塩害を対象とした現状の点検手法の整理と課題抽出，ならびに予防保全に適用可能な点検技術の体系化に関する検討を実施した。また，それらの検討成果を総括し，予防保全型点検手法の具体的提案を盛り込んだ委員会報告書の作成を行った。

8) JCI-TC244A 鉄筋コンクリート造構造物の津波被害軽減化技術に関する研究委員会 (令和6-8年度)

自治体における津波防護施設・避難施設の設計における技術的資料となるべく，2011

年東北地方太平洋沖地震以降，研究者レベルで行ってきた津波荷重を対象とした鉄筋コンクリート造構造物や部材の局部破壊に対する構造設計法に関わる研究や実設計の事例等を文献収集した。立地や方向を考慮した津波荷重，鉄筋コンクリート造壁部材の面外破壊，脱落する外装材の設計活用，津波漂流物の衝突荷重や堰止め荷重，2方向津波波力の影響，基礎杭に対する設計の考え方，衝突荷重に対する既存建築物の部材補強，免震構造における設計上の留意点，土木構造物の津波に対する設計の考え方等を取りまとめた。さらに，既存建物の鉄筋コンクリート造柱を想定した縮小模型の衝突載荷実験を行い，鋼板でジャケッティング補強した柱の補強効果について衝突実験により実証した。

9) JCI-TC251A コンクリート構造物の崩壊過程の予測・評価に関する研究委員会

(令和 7-8 年度)

鉄筋コンクリート系の土木構造物・建築物が，大規模地震等に際して，倒壊・崩壊に至るまでの挙動の予測・評価手法について研究動向を調査し，防災や災害対策に有効な知見を整理することを目的とし，FS 委員会から行ってきた文献調査結果を整理・分析した。その結果，予測・評価手法は多様な解析技術から理論的・経験的背景に基づく評価手法までさまざまなものがあることが分かった。調査した多くの文献を，対象の観点から，要素や柱や橋脚などの部材レベル (WG1) と，建物全体や架構システム (例えば桁と橋脚からなるシステム全体) (WG2) に大きく区分し，部材ごとあるいは構造物の種類ごとに整理していく方針を定めた。

10) JCI-TC252A カーボンニュートラルを視野に入れた基礎・地盤に用いるコンクリート系技術の土木・建築共通化に関する研究委員会

(令和 7-8 年度)

土木・建築システムの主に杭基礎に関する課題の共有，基礎・地盤に用いるセメント系材料のカーボンニュートラル評価手法に関する情報を収集するための WG 活動を実施した。杭基礎に関する課題として，土木における道路・鉄道・港湾と建築の各分野での設計基準の差異について，既往の研究・地震被害に基づき，設計計算と実現象の差異に関する議論を行うとともに，各分野の設計基準の変遷に関する調査に着手した。また，基礎・地盤に関するカーボンニュートラル評価については，外気に接しない地中部材では表面からの CO₂ 吸収が限定的であるため，CO₂ 排出量が少ない材料や予め CO₂ を吸収させた材料 (CCU 材料) を使用することが効果的といった，検討の方向性を確認した。

11) JCI-TC253B コンクリート構造とコンピュータビジョンの融合に関する研究委員会

(令和 7-8 年度)

デジタル画像相関法 (DIC) に代表されるコンピュータビジョン (CV) を活用したコンクリート系の構造実験の事例を収集するとともに，画像処理プロセスおよびその結果に影響を及ぼす撮影・解析条件の整理を行っている。令和 7 年度は，各委員より構造実験を対象に主に CV 活用の先端事例が報告された。併せて，次年度に向けて (1) DIC と有限要素法による解析結果を対応づけるための要素サイズとひずみ計測精度の関係の検証，(2) 普通・繊維補強コンクリートを対象とした DIC による損傷評価法の構築，および (3) 計測ひずみ分布に基づき構造の耐力評価法，に関する取り組み内容および

取りまとめ方針を整理した。

12) JCI-TC254B 高濃度 NaCl 水溶液を用いたコンクリートの配合設計に関する研究委員会 (令和 7-8 年度)

飽和濃度に近い高濃度な NaCl 水溶液がコンクリートのフレッシュ性状および圧縮強度に及ぼす影響を明らかにすることを主たる目的とし、さらに、高濃度な塩分が存在する条件下における鋼材腐食の抑制の可能性、ASR の危険性についても検討も行っている。令和 7 年度は、練混ぜ水の NaCl 濃度、セメント種 (OPC, BB), 水粉体比 (体積比), 塩の割方 (内割, 外割), 練混ぜ方を変化させた種々の配 (調) 合のコンクリートのスランプ値, スランプフロー値, 空気量, 7, 28, 91 日圧縮強度を測定し、飽和濃度に近い高濃度な NaCl 水溶液がコンクリートのフレッシュ性状および圧縮強度に及ぼす影響を整理した。さらに、促進膨張試験により高濃度 NaCl 水溶液を用いた場合の ASR の危険性について検討を行った。加えて、飽和濃度に近い高濃度な NaCl 水溶液を用いたコンクリート中の鋼材の腐食環境を電気化学的な観点から評価を行った。

(2) 技術委員会所管委員会

1) コンクリート基本技術調査委員会 (常設)

コンクリートの製造・施工に関する基本技術を調査し、広く社会に役立つ形で情報を発信することを目的とし、令和 7 年度は、運搬 WG でコンクリートの運搬についての報告会を開催した。また、年次大会に合わせて委員会報告会を開催し、歴代委員長によるこれまでの活動成果の報告とこれからの活動に関する意見交換を行った。この他、新たに生コン調査 WG と施工調査 WG の活動を始動した。

2) 危急存亡状態のコンクリート構造物対応委員会 (平成 29-令和 16 年度)

共通試験 WG およびモニタリング WG が活動を行った。共通試験 WG では、端島 (通称、軍艦島) に様々な補修を施して暴露した鉄筋コンクリート試験体を対象に、5 月および 10 月の上陸調査にて、鉄筋コンクリートや補修材の劣化の進行状況を物理的および化学的な観点から調べ、その結果を基に補修効果の検討を行った。また、70 号棟の実部材を対象として開始した補修試験施工の計画策定を行い、管理を開始した。モニタリング WG では、同じく 5 月および 10 月の上陸調査にて、30 号棟のモニタリングを継続して実施するとともに、30 号棟に代わるモニタリング対象候補である 3 号棟, 65 号棟, 69 号棟, 入坑栈橋について常時微動計測を行って振動特性を調べ、具体的な観測方法に関する検討を行った。さらには UAV を用いた点群計測による経年変化の評価や GNSS センサを用いた長期間における建築物の変位についても分析した。

3) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂原案作成委員会 (令和 4-7 年度)

前年度までに、指針改訂原案が規準・指針管理委員会の審査を経て理事会にて承認されたため、令和 7 年度は印刷会社への入稿原稿を作成し、10 月に「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2025」を刊行した。また、東京と大阪で改訂講習会を開催した。並行して同指針英語版作成のための準備と、「コンクリート工学」誌および *fib* National report に改定内容に関する記事を投稿した。

4) 既存コンクリート構造物の性能評価指針改訂原案作成委員会 (令和 7-8 年度)

2014年に刊行された「既存コンクリート構造物の性能評価指針2014」の改訂版を2028年（令和10年）に刊行することを目的とし、令和7年度から活動を開始した。初年度は、改訂方針について検討するとともに、実務ではどのような考え方で性能評価を行っているのか、性能評価の事例（土木分野）について情報収集し、検討を行った。

5) JCI-S-002 および 003 改正原案作成委員会 (令和7年度)

JCI 規準「JCI-S-002-2003 切欠きはりを用いた繊維補強コンクリートの荷重-変位曲線試験方法」および「JCI-S-003-2007 繊維補強セメント複合材料の曲げモーメント-曲率曲線試験方法」について、近年の繊維補強材料の高性能化に伴い、試験方法の見直しを検討した。JCI-S-002-2003 については改正原案を作成し、規準・指針管理委員会の審査を経て、理事会で改正が承認された。また、JCI-S-003 については、審議の結果、改正は行わず「確認」とした。

(3) 支部研究委員会

- 1) (北海道支部) 時間軸性能評価に基づく北海道地域の構造物設計に関する研究委員会 (第二期) (令和6-7年度)
- 2) (北海道支部) 北海道の火山堆積物の利用研究委員会 (令和6-7年度)
- 3) (北海道支部) 破壊力学と確率過程による短繊維補強コンクリートの力学モデル研究委員会 (令和6-7年度)
- 4) (北海道支部) 北海道におけるコンクリートの化学的侵食研究委員会 (令和7-8年度)
- 5) (東北支部) 東北地方におけるコンクリート構造物の劣化進行に関する調査研究委員会 (第二期) (令和6-7年度)
- 6) (東北支部) コンクリート構造物の再劣化に関する調査研究委員会 (令和7-8年度)
- 7) (中部支部) 中部国際空港鉄道連絡橋疑似橋脚での材齢100年間のモニタリング調査委員会 (常設)
- 8) (中部支部) 中部国際空港鉄道連絡橋材齢20年における疑似橋脚の物性等の調査研究委員会 (令和6-7年度)
- 9) (中部支部) 旧名古屋陸軍兵器補給廠関ヶ原分廠(火薬庫) 調査研究委員会 (令和7-8年度)
- 10) (中部支部) 小規模橋梁を対象としたコンクリート用DIY補修のあり方調査研究委員会 (第2期) (令和7-8年度)
- 11) (近畿支部) 各種コンクリートの品質管理におけるDX・省力化および合理化に関する調査研究 (令和7-8年度)
- 12) (近畿支部) 丹後震災記念館の調査 (令和7-8年度)
- 13) (中国支部) 土木および建築におけるコンクリート施工に関する調査研究委員会 (令和6-7年度)
- 14) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 (令和3-7年度)
- 15) (中国支部) 廃棄物を用いた低炭素耐火被覆材の調査研究委員会 (令和7-8年度)
- 16) (四国支部) 四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会 (常設)

- 17) (四国支部) コンクリート構造物の品質確保のための新技術開発と実践に関する研究委員会 (令和 5-7 年度)
- 18) (四国支部) 四国におけるインフラコンクリート構造物のメンテナンスに関する研究委員会 (令和 7-8 年度)
- 19) (九州支部) 副産物・地域材料を用いたコンクリートに関するレビュー研究専門委員会 (令和 6-7 年度)
- 20) (九州支部) セメント系材料の接合・接着部の性能に関する研究成果報告委員会 (令和 6-7 年度)
- 21) (九州支部) 九州におけるコンクリート産業の持続可能性に関する研究専門委員会 (令和 7-8 年度)

2. 標準化事業

(1) 規準・指針管理委員会

「日本コンクリート工学会規準・指針の制定／改正に関する規程」に基づき、審査申請された「JCI-S-002 切欠きはりを用いた繊維コンクリートの荷重－変位曲線試験方法（改正原案）」について審査を実施し、査読結果に対応した修正原案が妥当と認められたため承認した。また、以下の JCI 規準の改廃について審議し、理事会の承認を経て廃止した。

- ① JCI-S-004-2008 コンクリート用再生骨材 H の日本工業規格への適合性の認証のあり方
- ② JCI-S-005-2008 コンクリート用再生骨材 M の日本工業規格への適合性の認証のあり方
- ③ JCI-S-006-2008 コンクリート用再生骨材 L の日本工業規格への適合性の認証のあり方
- ④ JCI-S-007-2008 再生骨材コンクリート M の日本工業規格への適合性の認証のあり方
- ⑤ JCI-S-008-2008 再生骨材コンクリート L の日本工業規格への適合性の認証のあり方

(2) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

- 1) 以下の JIS について改正原案を作成し、委員会として承認した。
 - ① JIS A 1145 骨材のアルカリシリカ反応試験方法－化学法－
 - ② JIS A 1146 骨材のアルカリシリカ反応試験方法－モルタルバー法－
 - ③ JIS A 1191 コンクリート補強用 FRP シートの引張試験方法
- 2) 以下の JIS について改正の可否を検討し、確認（改正不要）を判断した。
 - ① JIS A 1107 コンクリートからのコアの採取方法及び圧縮強度試験方法
 - ② JIS A 1114 コンクリートからの角柱供試体の採取方法及び強度試験方法
 - ③ JIS A 1121 ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験方法
 - ④ JIS A 1123 コンクリートのブリーディング試験方法
 - ⑤ JIS A 1136 遠心力締固めコンクリートの圧縮強度試験方法

- ⑥ JIS A 1138 試験室におけるコンクリートの作り方
- ⑦ JIS A 1152 コンクリートの中酸化深さの測定方法
- ⑧ JIS A 1153 コンクリートの促進中酸化試験方法
- 3) 以下のJISについて要改正と判断し、改正原案（追補）の作成を開始した。
 - ① JIS A 1104 骨材の単位容積質量及び実積率試験方法
- 4) 新技術検討専門WGを設置し、新技術をコンクリート試験方法JISに導入する取り組みを開始した

(3) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 総会、各 SC（分科委員会）、および TC・SC の傘下にある WG・AHG（Ad Hoc Group）・CAG（議長諮問グループ）の会合に委員を派遣し、日本が主導する規格開発の説明を行うとともに、他国主導の規格作成に日本の意見を反映させた。
- 2) ISO/TC71 の以下の会議体において、TC・SC では議長、委員会マネージャーおよび委員会メンバー、WG・AHG・CAG についてはコンビーナ、セクレタリーおよびエキスパートの役割を遂行した。
 - ① TC71（コンクリート、鉄筋コンクリート及びプレストレストコンクリート）：議長、委員会マネージャーおよび委員会メンバー
 - ② SC1（コンクリートの試験方法）：SC の委員会メンバーおよび WG のエキスパート
 - ③ SC3（コンクリートの製造及び施工）：SC の委員会メンバー、WG のコンビーナおよび WG・AHG のエキスパート
 - ④ SC4（構造コンクリートの要求性能）：SC の委員会メンバーおよび WG のエキスパート
 - ⑤ SC5（コンクリート構造物の簡易設計標準）：SC の委員会メンバー、WG のコンビーナおよびエキスパート
 - ⑥ SC6（コンクリートの新しい補強材）：SC の議長、委員会マネージャー、委員会メンバー、WG のコンビーナおよびエキスパート
 - ⑦ SC7（コンクリート構造物の維持及び補修）：SC の議長、委員会メンバー、WG のコンビーナおよびエキスパート
 - ⑧ SC8（コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント）：SC の議長、委員会マネージャー、委員会メンバー、WG のコンビーナ、セクレタリーおよびエキスパート
 - ⑨ SC9（鋼コンクリート合成・複合構造）：SC の委員会メンバー、WG・AHG のエキスパート
 - ⑩ CAG：コンビーナおよびエキスパート
 - ⑪ TC71/WG1（コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント）：コンビーナおよびエキスパート
 - ⑫ TC71/WG3（コンクリートの用語）：コンビーナおよびエキスパート

- ⑬ TC71/AHG2 (コンクリートおよびコンクリート構造物の非破壊試験方法) : コンビーナおよびエキスパート
- 3) 国内関係機関と連携し, ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応した。
- 4) 日本から提案する次の ISO 規格案について, 情報収集・意見収集を図るとともに, 各国との調整を行い, 規格化に向けた活動を行った。
- (令和 7 年度発行: 新規制定および改正)
- ① ISO 10406-2 繊維強化ポリマー (FRP) によるコンクリートの補強—試験方法—第 2 部: FRP シート (改正)
- ② ISO 13182 繊維補強セメント複合材に用いる合成短繊維の分類 (新規)
- ③ ISO 18319-1 コンクリート構造物の FRP 補強材: FRP シートの仕様 (改正)
- ④ ISO 13315-5 コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント—第 5 部: コンクリート構造物の施工 (新規)
- (新規制定に向け対応中)
- ⑤ 火害を受けたコンクリート構造物の診断・補修: ISO/CD 13117
- ⑥ コンクリート及びコンクリート構造物の環境マネジメント: ISO/DIS 13315-7 (コンクリート及びコンクリート構造物の最終段階)
- ⑦ コンクリート及びコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量: ISO/CD 21282-1 (一般原則), ISO/CD 21282-2 (酸分解-逆滴定法) および ISO/CD 21282-3 (熱分解-重量測定法)
- ⑧ コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント—第 4 部: 使用段階
- ⑨ コンクリートの用語—第 1 部: 用語の分類についての原則: ISO/AWI 25511-1
- ⑩ 施工時, 竣工時, 管理時のコンクリート構造物の非破壊試験方法 (改正対応中)
- ⑪ ISO 22965-1 コンクリート—第 1 部: 仕様書作成方法
- ⑫ ISO 22965-2 コンクリート—第 2 部: 構成材料の仕様, コンクリートの製造および適合性
- ⑬ ISO 18407 水道用プレストレストコンクリートタンクの簡易設計法
- ⑭ ISO 14484 FRP を用いたコンクリート構造物の設計ガイドライン
- 5) ISO/TC156/SC1 (Corrosion control engineering life cycle), ISO/TC195/SC1 (Machinery and equipment for concrete work) および ISO/TC261 (Additive manufacturing) のリエゾン代表者を務めた。
- (4) JIS A5023 再生骨材コンクリート L 改正原案作成委員会
- JIS A 5023 再生骨材コンクリート L の追補改正原案を作成し, 主務大臣に改正申出したところ, 日本産業標準調査会の審議を経て, 改正が承認された。

3. 国際協力および交流

- 1) *fib* Symposium 2025 Antibes に先立って 6 月 14 日に開催された TC 会議および 15 日に開催された GA 会議に *fib* Delegate である国際委員会の石田哲也委員と Deputy

Delegate である藤山知加子委員が出席した。「*fib* コンgress 2030 準備委員会」にて、2030年10月に京都で開催される *fib* コンgress 2030 の開催準備をプレストレストコンクリート工学会 (JPCI) と共同で行った。また、*fib* コンgress 2026 (リスボン) で発表する National Report を JPCI と共同で作成した。

- 2) ACI 主催の「24 Hours of Concrete Knowledge」に参加し、7月9日の13時から14時 (日本時間) の間、JCI がホストを務め、JCI の昨今の研究委員会活動の内容を紹介した。7月16日と17日には「コンクリート構造物のイノベーションと新たな開発」と題して第7回 JCI-ACI ジョイントセミナーを盛岡で開催し、ACI から8名、JCI から8名の講演ならびに活発な質疑がなされた。10月26日から28日にボルチモアで開催された ACI Concrete Convention に国際委員会の楠浩一委員が出席した。併せて今後の Collaboration で行う議論の方向性について ACI 側担当者との打合せを行った。2004年に結ばれた International Partner Agreement (IPA) に代わり、2026年1月には JCI と ACI の間で Memorandum of Understanding (MOU) を締結し、2学会間の連携を確認した。
- 3) 8月24日にハノイ (ベトナム) で開催された RILEM TAC 会議に、対 RILEM 本学会代表の今本啓一氏が出席した。
- 4) 7月21日から23日に西安市 (中国) にて開催された Northeast Asia Standards Cooperation Forum (NEASF, 北東アジア標準協力フォーラム) に、ISO/TC71 議長である上田多門氏が出席した
- 5) 7月25日から27日に長沙市 (中国) にて開催された ACF Workshop on Emerging Concrete Technologies -20th Anniversary of Asian Concrete Federation において、元 ACF 会長の上田多門氏が出席するとともに、下村匠副会長が基調講演を行った。また、同時開催された Executive Committee (EC) 会議および11月14日から16日にシンガポールにて開催された 5th ACF Symposium Advancing Sustainable Solutions from Concept to Concrete と同時に開催された Executive Committee (EC) 会議に、ACF 対応委員会の長井宏平委員長が出席した。
- 6) 7月18日に第1回 JCI-TCI ジョイントセミナーを盛岡で開催し、学生セッション (両学会からそれぞれ5名発表)、若手研究者・技術者セッション (両学会からそれぞれ4名発表) が行われた。また、ジョイントセミナーに先立ち、両学会の学生を主対象として7月14日から15日に東京および仙台で高層ビルの免振工事やダム建設の現場見学会を実施した。12月11日から12日に開催された TCI 年次大会にて野口貴文副会長が基調講演を行った。12月11日には台湾の桃園で学生発表 (両学会からそれぞれ7名) 主体の TCI-JCI フォーラムが TCI 主催で行われた。12月12日には、学生を対象とした現場見学会が行われた。3月26日に JCI-TCI コラボレーション委員会の西山峰広次期委員長、浅本晋吾幹事、上田尚史委員が台湾を訪れ、次年度の計画について TCI 執行部と協議した。
- 7) 2026年9月に東京で開催する国際会議「2nd International Conference on Mineral Carbonation for Cement and Concrete (2nd MC3)」実行委員会にて、開催準備を行

った。

- 8) ISO/TC71 の次の会議に ISO/TC71 対応国内委員会からそれぞれの担当者がオンラインあるいは対面にて、議長、マネジャー、コンビーナ、エキスパート、委員の立場で出席した。全体会議（第 30 回 11 月 7 日 16 名）、CAG 会議（第 6 回 11 月 4 日 8 名）、SC1 会議（第 32 回 11 月 6 日 1 名）、SC1/WG7 会議（第 2 回 7 月 16 日 3 名）、SC3 会議（第 34 回 11 月 6 日 3 名）、SC3/AHG2 会議（第 3 回 10 月 31 日 3 名）、SC4/WG1 会議（第 20 回 11 月 6 日 2 名）、SC5 会議（第 25 回 4 月 3 日 2 名、第 26 回 11 月 5 日 3 名）、SC5/WG6 会議（第 2 回 6 月 6 日 3 名）、SC6 会議（第 19 回 11 月 5 日 6 名）、SC6/WG5 会議（第 5 回 10 月 22 日 3 名）、SC6/WG6 会議（第 4 回 10 月 23 日 3 名）、SC7 会議（第 20 回 11 月 6 日 7 名）、SC7/WG6 会議（第 5 回 6 月 26 日 4 名）、SC7/WG8 会議（第 1 回 1 月 26 日 4 名）、SC8 会議（第 16 回 11 月 4 日 5 名）、SC8/WG4 会議（第 4 回 3 月 27 日 3 名）、SC8/WG8 会議（第 2 回 12 月 23 日 3 名）、SC8/WG9 会議（第 2 回 10 月 13 日 3 名）、SC8/AHG1 会議（第 1 回 3 月 23 日 3 名）、SC9 会議（第 3 回 11 月 4 日 4 名）、SC9/WG1 会議（第 1 回 11 月 4 日 2 名）、SC9/AHG1 会議（第 1 回 5 月 8 日 1 名、第 2 回 11 月 4 日 2 名）、WG1 会議（第 8 回 11 月 5 日 8 名）、WG3 会議（第 1 回 10 月 13 日 3 名、第 2 回 1 月 20 日 4 名）、AHG2 会議（第 1 回 11 月 5 日 9 名）、以上、延べ 121 名が会議に出席した。

4. 受託研究事業

(1) 国際標準開発関連

三菱総合研究所 (MRI) 再委託 (経済産業省委託) 事業として、「令和 7 年度国際ルール形成・市場創造型標準化推進事業費 (戦略的国際標準化加速事業: 政府戦略分野に係る国際標準開発活動) (テーマ名: コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントを支援する調査・診断・補修技術等に関する国際標準化)」(2 年目) を実施した。6 件の規格案について、原案作成と提案のための対応を行い、成果報告書を提出して国際標準開発の事業を進めた。

(2) コンクリートおよび構成材料の CO₂ 固定量の評価方法に関する JIS 開発関連

「コンクリートおよび構成材料の CO₂ 固定量の評価方法に関する JIS 原案作成委員会」において、日本規格協会 (JSA) 再委託 (経済産業省委託) 事業として、「令和 7 年度エネルギー需給構造高度化基準認証推進事業費 (省エネルギー等国際標準開発 (国際標準分野 (新規対応分野))) (テーマ名: 2050 年カーボンニュートラル化を推進するコンクリート及びコンクリート構成材料の CO₂ 固定量の評価方法に関する JIS 開発)」(1 年目) を実施した。本件受託で外部機関へ発注した実験結果を反映の上、コンクリートおよびコンクリート構成材料に固定化した二酸化炭素の定量方法に関する 4 件の JIS 素案を作成し、これらの実施内容を取りまとめた成果報告書を提出した。

(3) コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質関連

「JCI-TC246C コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する研究委員会」

において、コンクリートに用いるスラグ骨材の環境安全品質に関する基本的な考え方を取りまとめ、重金属類の溶出試験を含めた検査のあり方の案を利用形態ごとに作成した。さらに、報告書の素案を作成した。

5. 出版事業

次の論文集、研究報告書、テキスト等を刊行した。

- 1) 「コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会」報告書 (CD)
- 2) 「コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委員会」報告書 (CD)
- 3) 「コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会」報告書
- 4) 「構造性能評価のための鋼材腐食性状の診断・推定手法および構造解析に関するシンポジウム」委員会報告書・論文集
- 5) マスコンクリートのひび割れ制御指針 2025
- 6) コンクリート技術の要点'25
- 7) コンクリート工学年次論文集第 47 巻 2025 年 (DVD 版)
- 8) 「最新のマスコンクリートのひび割れ幅解析技術」マスコンクリートソフト普及委員会報告書
- 9) Technical Committee Reports 2025 (研究専門委員会報告書英文概要, Web 公開)
- 10) コンクリート技士・主任技士研修テキスト'25
- 11) コンクリート診断士研修資料'25 (ダウンロード版)
- 12) コンクリート診断技術'26

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

毎月 1 回刊行して会員に頒布した。特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1) コンクリート・ツーリズムの飛躍 | 2025 年 5 月号 |
| 2) 創立 60 周年記念特集号 | 2025 年 9 月号 |
| 3) コンクリートの魅力とキャリアパス | 2026 年 1 月号 |

また、文献調査委員会により審議された「レビュー論文」を年 8 回掲載した。

(2) コンクリート工学論文集

オンラインジャーナルとして 36 巻 (5 月・7 月・9 月) および 37 巻 (3 月) を Web サイト (J-STAGE) にて公開した。

(3) 英文ジャーナル 'Journal of Advanced Concrete Technology'

オンラインジャーナルとして Vol.23 (Issue 4~Issue 12) および Vol.24 (Issue 1~Issue 3) を Web サイト (J-STAGE) にて公開した。

7. 広報事業

(1) 広報活動

1) 会誌「コンクリート工学」、本学会パンフレット、ホームページ等により活動状況等の広報活動を行った。

2) 情報コミュニケーション委員会

定期的なホームページ更新による情報発信および広報活動を目的として、本学会ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行った。主に、以下の項目に関する活動を行った。

- ① 月刊コンクリート技術（一般向けコンテンツ）の公開：6月号，8月号（4編），11月号，2月号の公開（合計7編）
- ② メールニュースの作成および配信（月1回配信。その他イベントリマインダ等を随時配信）
- ③ HPリニューアルの追加内容（英語版HPのリニューアル，会員専用ページにある研究委員会報告書検索システムの改修等）の検討

3) JCI 創立60周年記念事業実行委員会

以下の記念事業を実施した。

- ① 7月12日にベルサール半蔵門にて，関係団体および本学会と学術協定を締結している海外の団体の代表者等を招き，記念式典，特別講演および祝賀会を開催した。特別講演は「歴史的建造物の継承とコンクリート工学」と題して後藤治氏（工学院大学総合研究所教授）が講演を行った。
- ② 「60年のあゆみ 1965～2025」をWeb公開するとともに，印刷版を式典等参加者に配布した。また，創立50周年記念事業で制作したWebフォトアルバムに，この10年間に会誌「コンクリート工学」に掲載された写真および日本コンクリート工学会賞（作品賞）受賞作品の写真を追加，再編集した「くらしのなかのコンクリート -JCI 創立60周年写真集-」をWeb公開した。

4) コンクリート女性連携促進検討委員会

コンクリートに関わる女性の連携を促進させる具体的な仕組みを検討するために以下の活動を行った。

- ① コンクリートに関わる女性の連携促進に関する検討(通信方法)
- ② 建設産業女性定着支援ネットワーク(以下，NW)との連携によるPR活動，NWサイトの更新，ブロック意見交換会への参加
- ③ 「女性連携のための『現地見学および意見交換会』」を開催(関東支部共催，単独開催)

(2) 普及活動

1) マスコンクリートソフト普及委員会

本委員会では，主に以下の活動を行った。

- ① マスコンクリート温度応力解析プログラム（JCMACシリーズ）のユーザーサポート

- ② 委員会報告書「最新のマスコンクリートのひび割れ幅解析技術」の出版
 - ③ 報告会「最新のマスコンクリートのひび割れ幅解析技術および JCMAC シリーズの新機能」の開催
 - ④ JCMAC 初級者向けトレーニングセミナー開催
 - ⑤ JCMAC3-PS および JCMAC3-PSU の開発
 - ⑥ JCMAC3 英語版の開発
 - ⑦ 台湾コンクリート学会 (TCI) マスコンクリート委員会との連携準備会議
 - ⑧ TCI 会誌への JCMAC 紹介記事の投稿
- 2) コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針普及委員会
令和4年度に改訂された「コンクリートのひび割れ調査, 補修・補強指針 2022」の講習会の実施等により同指針の普及を主な目的とし, 以下の活動を行った。
- ① 国内講習会 (松山, 千葉, 沖縄) の実施
 - ② 実構造物のひび割れ実態調査 (能登半島) の実施
 - ③ 補修材料や工法に関する耐用年数 WG の運営
 - ④ 2022 年版指針本体に対する質問や修正指摘等への対応
 - ⑤ 2022 年版指針マンション編に対する質問や修正指摘等への対応
 - ⑥ 2022 年版指針ひび割れ判定ソフト Web 版に対する質問や修正指摘等への対応
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト普及委員会
「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト LECCA シリーズ」の普及活動の一環として, 同ソフトを利用している実務者ユーザーへのヒアリング等を行った。その後, 同ソフトの販売元とのロイヤリティ契約が終了し, 同ソフトに関して JCI が保有していた権利を相手方に譲渡することとなったため, 前身の「コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会」および本委員会のこれまでの活動を総括し, 今後の研究・実務への展開のあり方について整理した上で, 令和7年度をもって活動を終了した。

8. 関連学協会との共同活動

「(一社) 防災学術連携体」, 日本原子力学会主催「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会議」, 「(公社) 日本工学会」および「建設系 CPD 協議会」に委員を派遣するとともに, 「建設系 7 学会会長懇談会」に出席し, 情報収集を行った。

9. 助成金事業

2025 年度研究助成および国際会議参加助成を公募し, 7 件の研究助成および 7 件の国際会議参加助成 (前期 4 件, 後期 3 件) を採択した。また, 7 月 18 日に, 年次大会 2025 (盛岡) にて, 2024 年度助成金採択者に対する助成金交付証の授与を行った。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

(1) コンクリート工学年次大会

コンクリート工学年次大会 2025 (盛岡) を, 7 月 16 日から 18 日の 3 日間, 盛岡市民文化ホールおよびいわて県民情報交流センターにて, 対面形式で開催した。

石川雅美実行委員長の開会の辞, 前川宏一会長の挨拶, 野口貴文副会長による JCI 活動報告に続いて次の行事を行った。

1) 第 47 回コンクリート工学講演会

講演題数 574 編

参加者 4,269 名 (3 日間延べ)

2) 特別講演会

東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター

① 千葉 大地 氏 ② 小野 新平 氏

演 題 ① 放射光施設 NanoTerasu が拓くサイエンスフロンティア

② 材料科学から見たコンクリート

聴講者数 305 名

3) 生コンセミナー

テーマ カーボンニュートラル社会の実現に向けて 生コン業界への期待

参加者 延べ 800 名

4) コンクリート構造物診断セミナー

テーマ 雪ニモマケズ 塩ニモマケヌ サウイフコンクリートニ ワタシハナリ
タイ

参加者 延べ 208 名

5) 見学会

① もりおか探訪ツアー ② 岩手ダム巡りツアー

6) 年次論文奨励賞 50 名の表彰 (副賞: 南部鉄器の文鎮)

2. 講演会・講習会・シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

2025 年度コンクリート技術講習会を, 10 月 1 日から 11 月 26 日まで, オンライン (オンデマンド配信) 形式にて開催した。参加者は 785 名 (前年度は 588 名) であった。

(2) シンポジウム・セミナー・報告会・講習会

1) 「コンクリートにおける石灰石微粉末の実用性に関する研究委員会」報告会を, 9 月 2 日にルーテル市ヶ谷センターにて, 対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。参加者は 119 名であった。

2) 「コンクリートのアカデミックデータベースの整理と AI への活用に関する研究委

- 員会」報告会を、9月29日にオンライン形式で開催した。参加者は77名であった。
- 3) 「コンクリート構造物の性能評価型耐震設計法の日米比較に関する研究委員会」報告会を、9月24日に日比谷図書文化館日比谷コンベンションホールにて、対面形式で開催した。参加者は83名であった。
 - 4) 「構造性能評価のための鋼材腐食性状の診断・推定手法および構造解析」に関するシンポジウムを、9月5日に中央大学後樂園キャンパスにて、対面形式で開催した。参加者は76名であった。
 - 5) 「コンクリート基本技術調査委員会運搬WG」報告会を、7月4日にJCI会議室にて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。参加者は96名であった。
 - 6) 「コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針に関する講習会を、10月31日に松山市の愛媛県美術館にて、12月18日に千葉市の千葉市民会館にて、1月16日に那覇市の沖縄県立博物館・美術館にて、それぞれ対面形式で開催した。参加者は松山52名、千葉53名、那覇40名の計145名であった。
 - 7) 「マスコンクリートのひび割れ制御指針2025」改訂講習会を、10月17日に大阪科学技術センターにて対面方式で、11月5日に東京大学武田ホールにて対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。参加者は大阪39名、東京262名の計301名であった。
 - 8) 「最新のマスコンクリートのひび割れ幅解析技術」マスコンクリートソフト普及委員会報告会を、8月29日に連合会館にて、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。参加者は87名であった。
 - 9) 「3次元マスコンクリート温度応力解析ソフトJCMAC3講習会(初心者向けトレーニングセミナー)」を、3月11日・12日に海峡メッセ下関にて、対面形式で開催した。参加者は10名であった。

(3) 支部 講演会, 講習会, 報告会

支部主催の講演会, 講習会, 報告会を次のとおり開催した。

- 1) (北海道支部) 支部総会 (活動報告会) 特別講演
開催日: 5月30日
場 所: 札幌ガーデンパレス
演 題: フォトグラメトリと FEM の統合による構造性能評価
講 師: 宮森保紀氏 (北海道大学)
- 2) (北海道支部) 若手会 10 周年記念式典・現場見学会
【記念式典】
開催日: 9月18日
場 所: TKP 札幌駅カンファレンスセンター
【現場見学会】
開催日: 9月19日
場 所: エスコンフィールドツアーおよび札幌ダイビル工事現場
- 3) (北海道支部) コンクリートの日 in HOKKAIDO 見学会

- 開催日：10月9日
場 所：小樽ジャンクションCランプ橋工事，北村遊水地排水門工事
- 4) (北海道支部) コンクリートの日 in HOKKAIDO 出前講座
開催日：10月21日
場 所：札幌駅前ビジネススペース (ハイブリッド形式)
演 題：①コンクリート標準示方書を活用した既設RC構造物の性能照査例
講 師：金澤健氏 (北海学園大学)
演 題：②国際貢献事業 ～フィリピンにおける補強CB造への技術支援～
講 師：植松武是氏 (北海学園大学)
- 5) (東北支部) 第20回「コンクリート診断技術研鑽のための勉強会」
開催日：11月4日
場 所：東北大学 国際放射光イノベーション・スマート研究センター
ナノテラス施設見学
東北大学 大学院工学研究科 都市・建築学専攻 西脇研究室
実験室コンクリート3Dプリンター見学
- 6) (関東支部) 支部総会特別講演会
開催日：5月23日
場 所：都市センターホテル
演 題：①日本における3DCP開発・実装の現状と今後の展望
講 師：石田哲也氏 (東京大学)
演 題：②3DCPの魅力と強みを生かした新工法の開発
講 師：木ノ村幸士氏 (大成建設(株))
演 題：③高耐久・高靱性な部材がつかれる3DCP技術の開発と実装
講 師：小倉大季氏 (清水建設(株))
演 題：④3DPとUFCを融合した新たな造形式の開発
講 師：坂上肇氏 ((株)大林組)
演 題：⑤社会実装の最前線と誰もが使える3DCPに向けて
講 師：岩本卓也氏 ((株)Polyose)
- 7) (関東支部) 女性連携のための「UBE三菱セメント株式会社横瀬工場見学および意見交換会」
開催日：11月27日
場 所：UBE三菱セメント(株)横瀬工場
- 8) (関東支部) 講習会「わかりやすいコンクリート講座 ～コンクリート実務の基本～」(千葉)
開催日：3月23日
場 所：日本大学 生産工学部 津田沼キャンパス 39号館3階303教室
演 題：①製造・場外運搬
講 師：渡邊悟士氏 (日本大学)

- 演 題：②場内運搬・打込み・締固め
講 師：桜井邦昭氏 ((株)大林組)
- 演 題：③仕上げ・養生
講 師：柳井修司氏 (鹿島建設(株))
- 9) (関東支部) 若手会 21 見学会
開催日：3 月 17 日
場 所：南長野運動公園 長寿命化改修工事および施設
オリンピックスタジアム (長野五輪開会式会場)・U スタジアム・
プール改修
- 10) (中部支部) 支部活動報告会特別講演会
開催日：5 月 20 日
場 所：名古屋大学 ES ホール (ハイブリッド形式)
演 題：①バサルト繊維の物性や活用の将来像に関する調査研究委員会
講 師：岩下健太郎氏 (名城大学)
演 題：②中部地域の革新的コンクリート技術の拠点創造に関する調査研究
委員会
講 師：三浦泰人氏 (名古屋大学)
演 題：③建築における繊維補強コンクリートの使用状況と研究開発
講 師：丸田誠氏 (静岡理工科大学)
演 題：④コンクリートの組織観察と評価 “体積/面積→表面積→直径/寸法
→距離→個数” (3D→0D)
講 師：五十嵐心一氏 (金沢大学)
- 11) (中部支部) 学生研修会
開催日：3 月 24 日
場 所：東海環状自動車道 張り出し施工による箱桁施工現場
①荒田川橋 (三重県いなべ市)
②庭田高架橋 (岐阜県海津市)
- 12) (中部支部) 支部総会特別講演会
開催日：1 月 28 日
演 題：①浜岡原子力発電所 1 号廃炉材研究 (原子炉圧力容器)
講 師：熊野秀樹氏 (中部電力(株)), 伊藤元邦氏 (中部電力(株))
演 題：②浜岡原子力発電所 1 号他廃炉材研究 (コンクリート)
講 師：今井哲久氏 (中部電力(株))
- 13) (中部支部) 支部活性化活動講習会
開催日：2 月 26 日
場 所：ウインクあいち
演 題：生コン新技術普及講習会 (CO₂コンクリート固定化技術を用いた域内
カーボンリサイクルプロジェクト, 生コンコンプライアンスについて)

- 講 師：大場伸章氏（全国生コンクリート工業組合連合会 東海地区本部）
- 14) (近畿支部) 支部総会特別講演会
開催日：5月20日
場 所：大阪科学技術センター（OSTEC）8F 中ホール
演 題：「PVC膜を型枠利用した吹付けコンクリートによるRCシェルドーム構造物について」
講 師：第一部 構造設計について 金子寛明氏（鹿島建設㈱）
第二部 材料施工について 閑田徹志氏（鹿島建設㈱）
- 15) (近畿支部) 親子体験イベント
開催日：11月22日
場 所：京都市青少年科学センター 2階 休憩ホール，多目的室
演 題：「第3回 コンクリートっておもしろい！」
展示7機関
- 16) (近畿支部) 一般市民向け見学会
開催日：3月27日
場 所：新名神高速道路 淀川橋工事
- 17) (近畿支部) 見学会（丹後震災記念館調査WG）
開催日：8月18日
場 所：丹後震災記念館，峰山小学校
- 18) (中国支部) 支部総会特別講演会
開催日：5月23日
場 所：広島県情報プラザ 多目的ホール
演 題：コンクリート構造物の予防保全と長寿命化
講 師：竹田宣典氏（JCI 中国支部長・広島工業大学）
- 19) (中国支部) 第1回講演会（新赴任教員による講演含む）
開催日：11月15日
場 所：広島県情報プラザ 2階会議室
演 題：①過去と現代をつなぐ重層する木造建築
講 師：松本直之氏（山口大学）
演 題：②アルカリ活性材料（AAM）の高流動コンクリートへの適用に関する
実験的研究
講 師：三村陽一氏（呉工業高等専門学校）
- 20) (中国支部) 技術・研究交流会
開催日：11月15日
場 所：広島県情報プラザ 2階会議室
内 容：9件の研究報告，8件の技術紹介・工事報告，会員相互の交流
- 21) (中国支部) わかりやすいコンクリート講習会
開催日：12月19日

場 所：島根県民会館 303 会議室

演 題：①鉄筋コンクリート構造と木質材料を用いた合成床に関する研究

講 師：松本慎也氏（近畿大学）

演 題：②作用力を受けるコンクリートの凍害

講 師：筏津春花氏（松江工業高等専門学校）

演 題：③ジオポリマーコンクリートに関する最近の研究

講 師：周藤将司氏（松江工業高等専門学校）

演 題：④コンクリート構造物に対する補修材料の性能評価

講 師：上野和広氏（島根大学）

22) (中国支部) 中国地方のコンクリート系建造物の調査研究委員会 最終報告会

【米子会場】

開催日：2月27日

場 所：米子コンベンションセンター 第2会議室

講 師：中村秀明氏（山口大学），藤井隆史氏（岡山大学），周藤将司氏（松江工業高等専門学校），川上善嗣氏（広島工業大学），秋田知芳氏（山口大学），黒田保氏（鳥取大学）

【山口会場】

開催日：3月6日

場 所：KDDI 維新ホール 会議室 204AB

講 師：中村秀明氏（山口大学），藤井隆史氏（岡山大学），岡崎泰幸氏（広島工業大学），川上善嗣氏（広島工業大学），秋田知芳氏（山口大学），黒田保氏（鳥取大学）

【広島会場】

開催日：3月17日

場 所：エールエール A 館 ROOM1

講 師：中村秀明氏（山口大学），藤井隆史氏（岡山大学），周藤将司氏（松江工業高等専門学校），川上善嗣氏（広島工業大学），秋田知芳氏（山口大学），黒田保氏（鳥取大学）

23) (四国支部) 「四国におけるコンクリート教育に関する研究委員会」活動報告

モデル活動校：愛媛県立八幡浜工業高等学校

開催日：4月24日

場 所：ホテル パールガーデン

演 題：紙を用いたコンクリートの研究

講 師：皆川竜児氏（愛媛県立八幡浜工業高等学校）（音声で報告）

24) (四国支部) 支部総会特別講演会

開催日：4月24日

場 所：ホテル パールガーデン

演 題：これからつくる新幹線を考える

- 講 師：大内雅博氏（高知工科大学）
- 25) (四国支部) コンクリートに関する技術交換会・第9回
開催日：1月14日
場 所：オンライン（ライブ）形式
演 題：①省力化を推し進めた生コン試験所の紹介と今後の計画について
講 師：竹村賢氏（愛媛県生コンクリート工業組合）
演 題：②生コン業界のPR大使（自称）として
講 師：新居宏美氏（香川県生コンクリート工業組合）
- 26) (四国支部) 若手のための技術講演会 in 徳島
開催日：2月27日
場 所：徳島大学工業会館2階 メモリアルホール
演 題：多数
講 師：多数
- 27) (四国支部) 見学会
開催日：11月28日
場 所：①徳島自動車道 阿波スマートインターチェンジ工事
②徳島自動車道 新町谷川橋他3橋（鋼上部工）工事
- 28) (九州支部) 第7回学生シンポジウム
開催日：10月24日
場 所：福岡ファッションビル8階Dホール
内 容：学生による研究発表（10件）および意見交換
- 29) (九州支部) 第4回技術者勉強会
開催日：10月24日
場 所：福岡ファッションビル8階Dホール
内 容：企業の技術紹介および意見交換
講演者：高木弘敬氏（(株)エムビーエス）
小池耕太郎氏（太平洋セメント(株)）
平本真也氏（日鉄高炉セメント(株)）
壽上隆司氏（(株)ヤマウ）
- 30) (九州支部) セメント系材料の接合・接着部の性能に関する研究成果報告会
開催日：11月22日
場 所：福岡大学5号館1階512室
招待講演：建築物の災害後補修
講演者：吉敷祥一氏（東京科学大学）
研究者による研究発表：6件
発表者：倉富洋氏（鹿児島大学），秋吉善忠氏（大分大学）
櫛原弘貴氏（福岡大学），塚越雅幸氏（福岡大学）
崎原康平氏（琉球大学），保木和明氏（北九州市立大学）

[公 3 表彰事業]

1. 学会賞

2025年日本コンクリート工学会賞（論文賞，技術賞，作品賞，奨励賞，功労賞）として次に示す論文賞3件，技術賞3件，作品賞4件，奨励賞6件，功労賞8名を選出した。

（1）論文賞

- 1) Meso-scale Modeling of Anomalous Moisture Transport in Concrete Considering Microstructural Change of Cement-based Material

Puttipong Srimook (東京大学)
小川 啓悟 (東京大学)
丸山 一平 (東京大学)

- 2) Applicability of Deformation Indices Reasonably Evaluating Load Carrying Capacity and Failure Mode of Full-Scale RC Members Subjected to Bilateral Loads

小松 怜史 (横浜国立大学)
宮川 義範 ((一財)電力中央研究所)
松尾 豊史 ((一財)電力中央研究所)
畑 明仁 (大成建設(株))
島端 嗣浩 (東電設計(株))
中村 光 (名古屋大学)

- 3) Terahertz (THz) Wave Imaging in Civil Engineering to Assess Self-Healing of Fiber-Reinforced Cementitious composites (FRCC)

西脇 智哉 (東北大学)
清水 耕史 (東北大学)
田邊 匡生 (芝浦工業大学)
Diane Gardner (Cardiff University)
Riccardo Maddalena (Cardiff University)

（2）技術賞

- 1) 生産性向上に資する締固め不要コンクリートの実構造物への適用

松本 修治 (鹿島建設(株))
荒川 遥 (鹿島建設(株))
渡邊 賢三 (鹿島建設(株))
橋本 紳一郎 (千葉工業大学)

- 2) 品質と生産性の向上を目的とした打継目処理剤の開発

根本 浩史 (清水建設(株))
尾田 健太 (シーカ・ジャパン(株))
御領園 悠司 (清水建設(株))
幸田 圭司 (清水建設(株))

3) 型枠一本締め工法の誕生と生産性向上の実現

掛谷 誠 (鹿島建設(株))
園部 裕司 (岡部(株))
小野寺 利之 (鹿島建設(株))
佐藤 貴弘 (鹿島建設(株))

(3) 作品賞

1) MUWA NISEKO

矢作 大 (エイチプロパティーズ特定目的会社)
中本 太郎 ((株)日建設計)
向野 聡彦 ((株)日建設計)
濱口 芳郎 ((株)日建設計)
李 宇宙 ((株)日建設計)
平井 健太 ((株)日建設計)
千葉 隆光 (大成建設(株))

2) さつきた8・1 (住宅棟)

田中 重明 (札幌駅北口8・1地区市街地再開発)
辰濃 達 (大成建設(株))
池田 祥子 (大成建設(株))
脇田 拓弥 (大成建設(株))
杉山 智昭 (大成建設(株))
渡邊 悟士 (大成建設(株))
島津 幸二 (大成建設(株))
野口 裕介 (大成建設(株))

3) ハレミライ千日前

木原 隆志 ((株)竹中工務店)
爰野 将児 ((株)竹中工務店)
大竹 大輝 ((株)竹中工務店)
下村 将晴 ((株)竹中工務店)
本間 大輔 ((株)竹中工務店)

4) 茨木市文化・子育て複合施設 おにクル

福岡 洋一 (茨木市長)
神崎 夏子 ((株)伊東豊雄建築設計事務所)
佐々木 睦朗 ((株)佐々木睦朗構造計画研究所)
慶 祐一 ((株)竹中工務店)
田中 健嗣 ((株)竹中工務店)
吉村 純哉 ((株)竹中工務店)
赤堀 巧 ((株)竹中工務店)
平野 敦志 ((株)竹中工務店)

(4) 奨励賞

- 1) 既設耐震壁のあと施工開口に対する鋼管を用いた開口補強法の開発に関する基礎的研究 (総合題目)
田邊 祥平 (大成建設(株))
- 2) 火山ガラス微粉末のアルカリ活性材料への適用に関する基礎的研究 (総合題目)
大迫 雄馬 (熊本大学)
- 3) 3D コンクリートプリンティングにおける積層経路と積層体の力学特性および破壊進展挙動に関する研究 (総合題目)
中瀬 皓太 (北海道大学)
- 4) 石炭灰造粒物から製造した CCU 材料の特性評価とコンクリート用細骨材としての適用性に関する検討
森 香奈子 (鹿島建設(株))
- 5) アミンを利用した鉄筋コンクリートに対する CO₂固定促進および鉄筋腐食抑制手法 (総合題目)
齊藤 亮介 (清水建設(株))
- 6) CO₂を固定した練混ぜ水を用いたコンクリートに関する基礎的研究 (総合題目)
新杉 匡史 ((株)大林組)

(5) 功労賞

梶山 健二	湊田 安浩	唐沢 智之	荒巻 智
上田 隆雄	楠 浩一	小林 孝一	辻本 一志

2. 支部表彰

支部別に以下の表彰を行った。

- 1) 北海道支部
支部優秀学生賞 3名
支部功績賞 2名
- 2) 東北支部
支部奨励賞 4件
- 3) 近畿支部
支部奨励賞 2件
- 4) 中国支部
コンクリートマイスター認定 1名
- 5) 九州支部
支部長表彰 大学院 17名, 大学 27名, 高専 7名 (合計 51名)

Ⅲ 収益事業

[収 1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・主任技士試験

11月30日に、全国9地域（札幌，仙台，東京，名古屋，大阪，広島，高松，福岡，沖縄）において、コンクリート技士・主任技士試験を実施した。

全国の受験者はコンクリート技士試験 8,629 名（前年度 8,449 名），コンクリート主任技士試験 2,766 名（前年度 2,872 名）で，合格者はコンクリート技士試験 2,720 名（合格率 31.5%），コンクリート主任技士試験 366 名（合格率 13.2%）であった。

(2) コンクリート技士・主任技士研修

第39回コンクリート技士研修および第10回コンクリート主任技士研修をeラーニング形式にて，8月5日から9月24日に実施した。

全国の受講者はコンクリート技士 11,082 名，コンクリート主任技士 2,660 名の合計 13,742 名（前年度コンクリート技士 10,548 名，コンクリート主任技士 2,541 名の合計 13,089 名）であった。

(3) コンクリート技士・主任技士の登録

コンクリート技士・主任技士試験合格者からの申請に基づき，コンクリート技士 2,678 名（登録率 98.5%），コンクリート主任技士 364 名（登録率 99.5%）の登録を行った。また，登録有効期間（4年）満了となる登録者および未登録者のうち，コンクリート技士・主任技士研修を受講したコンクリート技士 10,327 名，コンクリート主任技士 2,612 名の更新・再登録を行った。この結果，2026年4月1日における登録者数は，コンクリート技士 50,389 名，コンクリート主任技士 11,473 名となった。

なお，コンクリート技士・主任技士試験の2025年度の受験者数，合格者数および2026年4月1日における登録者数の業種別内訳は，次表のとおりである。

業 種	技士試験		主任技士試験		登録者	
	受験者	合格者	受験者	合格者	技士	主任技士
官庁	33	16	6	3	237	33
独立行政法人・事業団等	45	16	3	1	278	69
地方自治体等	87	57	29	7	1,033	182
大学・学校	3	2	2	0	79	66
設計事務所	40	20	10	4	455	106
コンサルタント	539	226	82	12	3,172	693
エンジニアリング	64	31	9	0	251	42
セメント	91	41	39	10	574	378
混和材料	39	14	69	10	682	380
生コンクリート	1,748	380	1,346	125	9,686	3,783
コンクリート製品	813	194	194	27	4,163	683
建設	4,119	1,379	770	139	24,776	3,968
調査診断	134	34	13	0	284	63
試験	198	59	71	7	325	101
電力・ガス	81	52	13	3	384	103
鉄道	126	38	5	1	514	72
道路	117	43	18	4	592	86
その他	352	118	87	13	2,904	665
合 計	8,629	2,720	2,766	366	50,389	11,473

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習

2025年度コンクリート診断士講習をeラーニング形式にて、4月4日から5月19日に実施した。

全国を受講申込者は3,079名（前年度2,965名）であった。

(2) コンクリート診断士試験

7月27日に、全国9地域（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、高松、福岡、沖縄）において、コンクリート診断士試験を実施した。

全国を受験者は3,030名（前年度3,217名）で、合格者は537名（合格率17.7%）であった。

(3) コンクリート診断士研修

2025年度コンクリート診断士研修をeラーニング形式にて、9月10日から9月30日に実施した。

全国を受講修了者は3,279名（前年度3,018名）であった。

(4) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士試験合格者からの申請に基づき、534名（登録率99.4%）の登録を行った。また、登録有効期間（4年）満了となる登録者および未登録者のうち、コンクリート診断士研修を受講した3,279名の更新・再登録を行った。この結果、2026年4月1日におけるコンクリート診断士登録者数は15,380名となった。

なお、コンクリート診断士の2025年度の受験者数、合格者数および2026年4月1日における登録者数の業種別内訳は、次表のとおりである。

業 種	受験者	合格者	登録者
官庁	31	10	135
独立行政法人・事業団等	23	12	190
地方自治体等	112	33	804
大学・学校	1	0	78
設計事務所	37	5	214
コンサルタント	786	142	3,971
エンジニアリング	22	6	249
セメント	36	8	282
混和材料	26	3	149
生コンクリート	240	21	717
コンクリート製品	85	11	429
建設	1,150	207	5,879
調査診断	146	14	497
試験	42	2	91
電力・ガス	33	12	201
鉄道	41	10	286
道路	79	18	375
その他	140	23	833
合 計	3,030	537	15,380

3. 資格・講習委員会

コンクリート診断士試験およびコンクリート技士・主任技士試験合格者の内定を行った。また、国土交通省の技術者資格登録の対応を行った。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ2025

コンクリート工学年次大会2025（盛岡）と併行して、コンクリートテクノプラザ2025

を開催した。

展示 66 社 技術紹介セッション 41 件
入場者数 3 日間 2,617 名

IV その他

1. JCI 次世代構想特別委員会

令和 6 年度から継続し、中期的視野に立って今後本学会が進めなければならない事項のうちいくつかのテーマに絞った討議を行い、その結果を報告書に取りまとめて理事会に報告した。

2. 名誉会員の称号授与

第 58 回定時社員総会の決定に基づき、荒木秀夫氏、市之瀬敏勝氏、上田多門氏、武若耕司氏、西山峰広氏、畑中重光氏、松島学氏の 7 名に名誉会員の称号を授与した。

3. 終身会員およびフェロー会員の表彰

令和 7 年度の終身会員 6 名、フェロー会員 7 名を認定し、会誌 2025 年 2 月号にて公表した。

4. 定款・規則改定委員会

令和 7 年度は、「役員の報酬等に関する規程」の改正案について審議し、理事会に付議した。

5. 会員の動向

会員種別	令和 6 年度末 会員数	令和 7 年度中の異動			令和 7 年度末 会員数
		入会	退会	異動	
正会員	5,652	278	507	364	5,787
学生会員	411	292	86	-364	253
第 1 種団体会員	44	3	2	-	45
第 2 種団体会員	363	10	7	-	366
計	6,470	583	602	0	6,451

*異動：学生会員から正会員への変更等

6. 役員の異動

(1) 退任

令和7年6月17日付で退任した役員は次のとおりである。

副会長 内田 裕市, 黒岩 秀介
理事 阿波 稔, 椛山 健二, 岸 秀樹, 楠 浩一, 國枝 稔, 神代 泰道,
小林 孝一, 瀧澤 明次, 鶴田 浩章, 山口 明伸
監事 野村 謙二

(2) 就任

令和7年6月17日付で就任した役員は次のとおりである。

副会長 下村 匠, 丸屋 剛
理事 兼松 学, 岸 利治, 小出 英夫, 坂井 吾郎, 須田 久美子,
瀬古 繁喜, 谷 昌典, 壽上 隆司, 中原 浩之, 横山 和昭
監事 檜垣 誠

以上